

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171800259		
法人名	特定非営利活動法人 グッドシニアライフ		
事業所名	グループホーム和居和居		
所在地	岐阜県土岐市泉町大富174		
自己評価作成日	平成24年12月20日	評価結果市町村受理日	平成25年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171800259-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171800259-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成25年1月27日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設より10年が経ち利用者の認知症状態も様々であり一人ひとりに合わせた介助が必要となっています。スタッフは認知症の理解を学び、より良い対応を試んでいます。そして、ご家族、地域の方に運営推進会議、行事等出席して頂きホームの様子を見て頂いております。和居和居のホームの環境は、とても良く近くの公園に散歩に出掛けて行くことができ、地域の方とふれあいのある生活を送る事が提供できています。そして、法人代表は、神経内科の専門医であり医療の面からのサポートができ、スタッフ全員が学習療法を行い利用者とのコミュニケーションをとることで認知症進行の予防となっています。認知症であっても今を楽しめるよう笑顔で生活を送ってほしいと考えます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症の進行予防に有効な、学習療法を長期にわたり継続している。その成果は、利用者とのコミュニケーションを活性化し、その人らしい暮らしにつながっている。今年度より、運営推進会議を隔月に開催できるようになり、8名の家族が参加している。家族との信頼関係を築き、夏祭りの手伝いや、音楽ボランティアの一員としても訪れている。また、年2回のバス旅行には、大勢の家族が同伴している。管理者や職員は、協力医から専門性を学び、活かしながら、利用者の残存機能を引き出し、日々楽しく安心な生活を支援している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念はいつも見える所に貼られていて、理念に基づいた介護の実践をしています。	理念は「生きる場としての家の提供」を含め複数掲げている。会議の場で、理念を振り返り、全員で話し合っている。地域の人々とふれ合い、今を楽しく、笑顔のある暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧版で行事が分かり夏祭りに参加し近くの催し物にも積極的に出掛けて行きます。地域のコーラスの方が大勢来てくださり、マジックの方とも長年のお付き合いとなっています。	自治会員として、地域行事への参加や中学校の資源回収に参加している。地域のボランティア団体、個人とも交流が継続している。近隣の人達とは、気楽につきあいのできる関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の介護実習を毎年受入を行い2日間お年寄りとの交流を図り認知症を学んでいきます。ホームの七夕コンサートには家族様ご近所の方も来てくださいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ご家族に畑、庭の草取り等ご協力頂いたり、災害時の炊き出し訓練非常食の試食等活動して頂く事が多くありました。	会議は隔月に開催し、行政担当者をはじめ、8名の家族が参加している。直近の会議では、災害対策の具体的な項目を話し合っている。出席者の多様な意見は、管理者会議で検討し、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	土岐市の地域ケア会議に出席して地域の様々の方との交流が来ています。運営推進会議に市役所担当者の参加も有り事業所の取り組みを理解して頂いています。	運営推進会議に出席した担当者に、事業所の実情を伝えている。市主催の地域ケア会議で、最新情報を交換している。困難事例は、その都度相談し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを行うと共に、必要な行為に関しては、ご家族に説明を行い承諾を得ています。	身体拘束を行わないケアを実践している。拘束の範囲や弊害を、学習会で学び、周知している。日中は、玄関の鍵を開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し事業所内で勉強を行っています。		

岐阜県 グループホーム「和居和居」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を学び、必要な方には支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は家族、利用者の不安な点などには、十分な説明を行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会での交流が出来ます。アンケートを実施しスタッフで共有しました。	家族から率直な意見がもらえるように、今年度は、アンケート調査を行った。「職員の笑顔が少ない、挨拶ができるように」との意見があり、職員会議で話し合い、改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	働きやすい環境である為に管理者会議で提案している。	管理者は、月例の会議と、職員との個別面談を行い、意見を聴いている。個別ケアの課題や室内灯設備の改善、職員のレベルアップについて提案があり、できるものから改善している。	職員の質の向上は、継続的な目標であり、広い視点での職員教育に期待したい。実践事例は、個人に留めず、全員で検証し、意義を共有することが望ましい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回スタッフ面談を行い個々の状態を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修を積極的に受け、技術知識を深めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ協議会に参加し、勉強会を行うと共に地域の方との交流も出来ました。		

岐阜県 グループホーム「和居和居」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時よりホームの様子を見て頂き、自宅の様子も訪問することで環境がわかり、本人の思いを用紙に記入して頂きスタッフで情報を共有して対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にも申し込み時よりホームを見学して頂き、初期の本人の様子などを伝えると共に、センター方式の家族の思いを知って関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の不安な気持ちを受け止め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が生活をする場がホームなので家での暮らしでできる事を活動して頂いています。また、人生の先輩である利用より家事、畑のアドバイスを聞きながら活躍できる場面を見つけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の状況に合わせて、様々な行事を行うことで面会に来ていただき、途切れない関係性を築き、ケアカンファレンス時意見を聞き、家族さんにも参加をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、外泊、面会など自由に行っており、知人、友人、親戚等面会が有り、時々買い物に出掛けた際に知人と会ったりする。	知人・友人、親戚など馴染みの人が訪問している。訪問者には、利用者とゆっくり話しが出来る場を設け、再々の訪問を働きかけている。馴染みの店での買い物や行楽地へは、職員と出かけ、外泊等は家族に依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の馴染みの関係ができており、利用者同士で話が出来ています。時には、スタッフが間に入って関係調整をしております。		

岐阜県 グループホーム「和居和居」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもホームに訪問して下さり野菜を頂いたり、ボランティアでホームに来てくださいます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のミーティングでのケア検討で一人ひとりの状態を把握して、センター法式を使い気づいた事を記入して本人の心地よい暮らしに役立てている。	生活の中で、新たに把握した思いや意向は、個人情報項目に加え、職員間で共有している。把握が困難な人は、表情から汲み取っている。思いや希望は、その人が、暮らしやすいように役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センタ方式家族版を利用して情報を共有し生活歴を把握している。元気なころの写真を提供して頂きスタッフの知らない利用者の姿を知ることでこれまでの暮らしを理解している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の生活状態で何が出来、何に介助が必要なのかをチームで把握して取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで話し合いを行い、3ヶ月に1度のケア検討では利用者、ご家族に参加して頂き意見を頂戴し介護計画に反映している。	毎月の職員会議で介護記録を検証し、意見等を介護計画に反映している。3ヶ月ごとのケアカンファレンスには、本人・家族を加え、要望を聴いている。状態に変化があれば、現状に即して見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の発言を記録に残しスタッフで共有し、ミーティングで話し合いを行い介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今の状態を介護記録に記入しスタッフで情報を把握して今必要なサービスを提供出来るよう取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム「和居和居」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中学生の体験学習や、地域のボランティアの訪問によって、地域の話ができ豊かに暮らせている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師が訪問診察に来て、健康管理をして頂いています。歯科も医師の訪問診察に来て下さり、歯科衛生指導も受けている。その他、皮膚科、整形外科等の診察はご家族にお願いしています。	運営者が協力医であり、全員が、かかりつけ医としている。月に2回の往診と、24時間の連絡体制を取っている。歯科医の訪問治療は毎週あり、車椅子の人は、法人の特殊車両で、通院を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	東濃訪問看護ステーションと月2回の訪問看護で状態把握をして頂いています、救急時には24時間の連絡体制が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は病院関係者またご家族と情報共有することで安心して治療できるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から状態を伝え、終末期のあり方について医師、家族とその都度方向性を話し合い決めている。	重度化・終末期の対応は、状態に応じその都度、医師と家族が話し合い、支援のあり方を決めている。いくつかの選択肢の中で、自然な看取りに応じた実績がある。重度化・週末期に向けた、明確な指針づくりを検討している。	職員が終末期対応を行う際の、葛藤やストレスを和らげるメンタル教育や、実例を検証し、これまでの体験を活かした指針づくりに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月のミーティングで勉強を行い、マニュアルでも分かるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施し避難、通報、消火訓練を行っています。災害時の対応もミーティングで話し合い方法を共有し備蓄品の確保もしている。又、家族にも報告している。	年に2回、消防署の立会いと、自主訓練を実施している。初期消火、避難誘導や通報等、夜間想定も行っている。地域との協力体制があり、備蓄も備えている。	

岐阜県 グループホーム「和居和居」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者の訴えを傾聴し安心出来る声掛けを心掛ける。	職員の言動が、相手を傷付けないように、目線や声の大きさに気をつけている。何か依頼するときは、お願いする姿勢で、優しく言葉をかけるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定出来る様に疑問形で尋ねご本人が決定出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムの中で、一人ひとりのペースを崩さず、希望を聞きながら一日の生活を送って頂く。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族と美容院に出掛けて行かれる。洋服、化粧品の購入の支援を一緒に行う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の献立を利用者と話しながら考え、食べたい物を利用者と決め外食に出掛けて行きます。	利用者の好みを聴き、季節感のある献立で調理している。職員も同じ物を一緒に食べ、さりげなく見守りながら会話を交わしている。誕生日などは、郷土食の五平餅を一緒に作ったり、外食の機会を楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつ水分では好きな飲み物を選んで頂き、飲めるように介助している。食事個々に合わせて柔らかく食べやすくしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けで出来る方から介助の必要な方までケアしています。就寝前の義歯洗浄も介助しています。又、訪問歯科も利用し歯科衛生士による口腔ケアも実施しています。		

岐阜県 グループホーム「和居和居」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食後にゆっくりとトイレに座って頂き排泄を促す。椅子から立ち上がり移動した際にトイレ誘導を行う。また、外出前のトイレ誘導も行っている。夜間リハビリパンツを使用の方も昼間は布パンツにパッドを使用して介助しています。	利用者の半数の人は、自立度が高く、日中は布パンツを着用している。生活の場面ごとに声をかけ、トイレへ促し、失敗を減らしている。夜間も見守りと声掛けで、自立を支援している。ポータブルトイレは設置していない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトを摂り食事のバランスにも気を配り水分も摂って頂いています。また、毎日の散歩に出掛けて行くことで身体を動かし自然に排泄で来るよう取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、利用者の希望を聞き夏は毎日入浴ができる。浴槽に入れられない方はシャワー、足浴で温まって頂いています。季節に合わせて、菖蒲湯、ゆず湯、入浴剤などで楽しんでいます。	希望者は、隔日に入浴できるように支援している。体調に応じ、シャワー浴や足浴で対応している。季節の菖蒲や柚子、各種入浴剤を使い、ゆったり楽しめるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は散歩をして身体を動かすことでぐっすりとして休んで頂け、疲れた方は、お昼寝をされます。また、寝具の清潔を保ち布団干し等定期的におこない気持ち良い環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の訪問診察があり、処方された薬の内服の状態を医師に報告すると共に、薬剤師より服薬指導があり副作用等の理解を行い、内服の介助をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴からその方の得意な事、掃除、洗濯、台所の手伝いであったり、野菜作り、花を育てたり、買い物、好きな物を食べに出掛けたり、日記を書いたりを積極的に行えるよう声掛けしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩、ドライブ、外食、買い物に出掛けています。地域の祭り、虫見学にはご家族さんと一緒に出掛けて頂き、年2回の遠足にもご家族さんと一緒にバスにて出掛けて行きました。	毎日周辺を散歩している。買い物や外食へは、ドライブをかねて、外出している。地域の行事、遠足のバス旅行は、家族に参加を呼びかけ、一緒に出かけている。	

岐阜県 グループホーム「和居和居」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事の出来る方には持って頂き、買い物、支払いの支援を行っています。持つ事の出来ない方には、お小遣いで預かり買い物の支払いの支援を行っています。ケアカンファレンスでご家族に小遣い帳の報告をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人からの手紙が届き本人にお渡しして返事を書かれ手紙の投函等の介助する。利用者にはハガキの文字を読み上げハガキをご家族にお渡しする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が分かるようにその時期の掲示物を工夫しています。観葉植物、花を植えて水やるを行えるようにしています。	玄関や共用の場に観葉植物や季節の花を置いている。掛け軸や絵画の名品、利用者の作品である習字、季節を題材にした貼り絵等を掲示し、生活感のある空間づくりを工夫している。冬は乾燥の時期であり、湿度の管理が課題である。	湿度計が設置してあり、1階は21%を示していた。感染予防対策の観点からも、湿度の管理に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お部屋では一人になれ、気の合った者同士はお互いに訪問しあって話をして過ごしている。リビングでは座り慣れた場所で落ち着いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族には家で使用していた物をなるべく持ってきて戴けるようお願いをしています。利用者に合った部屋の飾りがしてあり、入口には部屋が分かりやすい様に好みの飾りがしてある。	居室には、馴染みの物を配置している。タンス、位牌や仏壇、人形などがある。造り付けの洗面台、掃出し窓があり、居心地のよい居室になっている。写真や作品は、本人が好むように飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	衣類の着替えが分かるようタンスの中を今の季節の物で揃えています。トイレの場所は分かりやすく表示しています。		